てんこ新聞

No.16
発行 徳島県南部総合県民局
〒774-8503 徳島県阿南市富岡町トノ町11-7
TEL 0884-22-0883

我が古里

六月は雨の日が続きました。国道や県道も通行止めになる程の大雨。"もう雨はいらんはよ"と人々は言います。天気が続けば"雨がほしい"雨が続けば"もういらんこと自然相手にグチが出る日々。それ程、自然は人の思うようにはならないものです。その自然現象をどう感じるかで、出る言葉も正反対になってきます。

祖谷の「自然」ってなんだろう

出て、自治体の側から観光プランを提案する「場モデル」で注目されている記事がありました。その岩井さんに、「徳島の観光をどうみているか」と質問した所、「徳島は"宝島"だそうです。じゃなんで徳島のアスティ四年間も館長してたのに……」とおもいます。宝がいっぱいあっても、それが観光にいかせないのは、第一に「自由にやってください」という権限を与えられていないという事。そうじゃネー、いくら外から人材を求めても、その人が動ける環境がなければ芽は出ません。組織や団体を守る、あるいは今の権益を守るだけに エネルギーを注いでいれば息切れします。例は、いくらでもあります。第二には、人材と組織だそうです。アイデアがあり提案しても、それだけに終ってしまう。誰でもおもいあたりませんか、「会議の為の会議」だったり「市民参加」だったり。

それじゃ、祖谷はどうなんだろう。祖谷の「宝」は何んだろう。あなたには「宝」を知ってますか。

祖谷に住んでいて、祖谷の歴史や自然について、少しは知っているも「宝」だと自覚できているでしょうか。茅葺き屋根の保存、復元に努めていますが、茅場をはじめ茅をかえ作業の仕方、技術、茅葺き家の利点等々を地域の生活の中で伝え、守られてきたものが、今どれだけ伝えられているのだろうか。

祖谷が住んで、都会と同じ様な生活を求めれば、不便になり不安になってきます。あれも、これも欲しくなり、マイナス面ばかりに目がいきます。反対に、都会の生活を求めなければ、プラスに目が向けば、こんないい場所はないとおもいます。

住めば都ってよく言われますが、都にするかどうかは、住んでいる人々の心でとおもいます。「宝」が存在しても宝と感じなければ、ある生ゴミやペットボトルを、ポイ捨てするように、「宝」も単にゴミの一部になるのです。

今月の格言
地図をいくら調べても、
自ら歩き出さない限り、目的地へは近づかない